

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 島根大学大学院教育学研究科・鳥取県教育委員会／島根県教育委員会
コラボ研修プログラム	事業名：山陰若手教員交流セミナー（2022）
支援事業報告書	研修等名：【NITS・島根大学コラボ研修】 第1回・第2回・第3回 山陰若手教員交流セミナー 開催日時：【第1回】令和4年6月28日15時30分～16時45分 【第2回】令和4年8月19日13時00分～16時45分 【第3回】令和4年11月22日15時30分～16時45分 開催場所：島根大学教育学部（島根県松江市西川津町1060）【オンライン開催；Zoom】 参加人数（総数）と参加者の属性：85人（学校教員45人、島根大学23名、教育委員会17人）

内容： ※全体発表の内容をテーブ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

◆ねらい

【第1回】日頃考えていることや抱えている悩みを共有したりそれを解消するための手立を議論したりするなかで、自身の強みに気づく。

【第2回】①山陰両県の若手教員相互の交流を深め、大学・両県教委を含めたネットワークの構築を図る。
②若手教員が、自らのレジリエンス（回復力）を高め、実践に学び、自己の強みを探り、自己肯定感を高めることで、指導力向上に向う意欲を育み、強みを活かしたプランを立案する。

【第3回】半年間の各自の取組を振り返り共有し、今後の実践にどのように活かすことができるかを考える。

◆内容【紙幅の関係上、第2回について抜粋し、掲載】

- ① セミナーのコンセプトと概要、参加方法の説明（20分）
- ② 第1セッション～パネルディスカッション（参加代表者2名による発表とトーク）（50分）
○全体での実践発表「失敗から学んだ成功体験」 ○トークセッション
- ③ 第2セッション～テーマ別座談会（各テーマ参加代表者1名による発表とグループワーク）（75分）
○中テーマ（「児童生徒理解と生徒指導」等）別実践発表・質疑・応答（ブレイクアウトルーム使用）
○小グループワーク（「テーマごとに実践や体験、成果、課題、悩み、アドバイスを交換し合うなかで、一人ひとりの強みを認め合う」） ○コーディネーターからのアドバイス
- ④ 第3セッション～強みを生かした目標と手立ての構想～（45分）
「他の参加者から認めてもらった長所や強みを生かして、2学期に取り組む目標と手立てを構想する。」
- ⑤ リフレクション～各グループ代表による振り返り（10分） ⑥ アンケート記入（10分）

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

◆受講者の学びの一例は以下の通りであった。（受講者のアンケートより一部を抜粋）

「悩みがあるのは自分だけではないし、失敗から成功につなげた話や、お互いの良さを話し合えたのでとてもいい機会でした。」（第1回）

「山陰両県の先生方との話し合いの中で、自分自身の強みに気づかせていただき、また肯定的な言葉をかけていただいたことで、2学期以降のモチベーションになりました。」（第2回）

「周りの先生方に相談しながら効率よく仕事をしていこうと思いました。一人で悩んだり、こうあるべきと決めたりするのではなく、いろいろなやり方を知った上で、解決策を吟味しながら生活していきたいと感じました。」（第3回）

アイデアや工夫したこと： ※3～5つ程度の箇条書きしてください。

- ・採用1～3年目の教員が同じグループになるように編成したことで、悩みの共有にとどまらず、勤務経験の違いを活かした失敗・成功体験や情報交換、教員同士の助言につながったこと。
- ・参加者の良さ、強みを Jamboard で互いに出し合う操作もほぼできたことで、自己肯定感やモチベーションを高め合うことができたこと、またいつでも各自の記録にアクセスが可能となったこと。
- ・鳥取県教委・島根県教委と島根大学で構成する山陰教師教育コンソーシアムの初年度の事業として、周知・運営、振り返りまで、両県教育センター等と大学で協働して行えたこと。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。



図1 参加者の様子（第1回；6月28日）

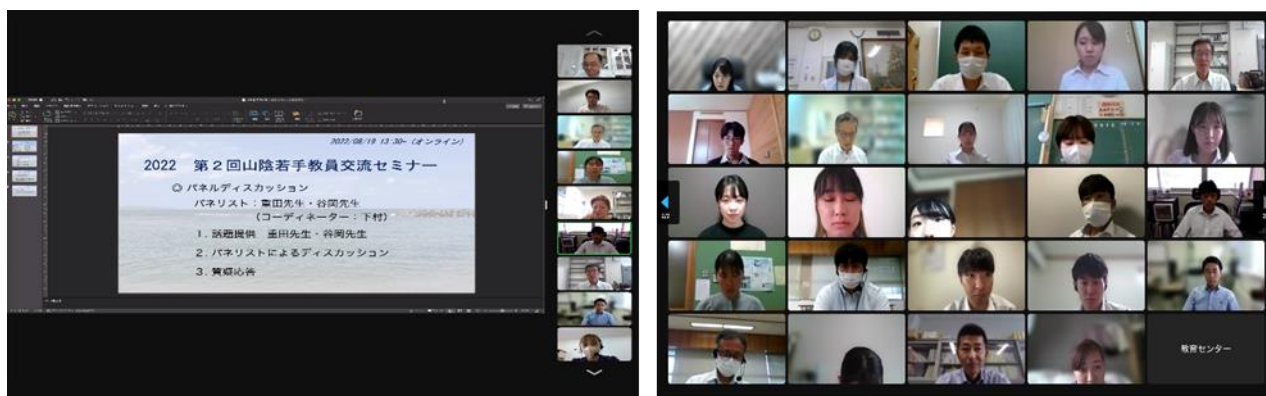


図2 参加者の様子（第2回；8月19日）



図3 参加者の様子（第3回；11月22日）